

移動市長室

御笠まちづくり協議会自動車部会 人と地域をつなぐ 御笠自治会バス



通算99回目となる移動市長室を、2月21日(金)に御笠コミュニティセンターで開催し、御笠まちづくり協議会自動車部会10人と懇談を行いました。



御笠まちづくり協議会が運営する御笠自治会バスは、「住民の住民による住民のためのバス」をモットーに、平成31年1月8日から運行を開始しました。年中無休で運行しており、利用者数は今年の2月末までに約1万3千人を数えました。着実に地域に浸透しつつある御笠自治会バスについて、この1年の活動を振り返って報告がありました。

地域の課題だった交通対策

御笠まちづくり推進計画策定に向けて地域課題を整理するうち、その一つとして交通対策の必要性が浮上りました。そこで、平成28年度から御笠まちづくり協議会で自治会バスの運行について本格的な検討を始め、近隣自治会バスの視察や住民との勉強会、市・関係機関への相談などを

行いました。地域の声を直接聞くために、約半年をかけて地区内の全行政区を回り、交通面で困っている住民の意見を集め、それらを基に、実現に向けて何度も協議を重ね、運行に至ることができました。

バスが生んだ地域交流

バスの車内は和やかな雰囲気でもなっています。乗客の多くは高齢者で、何気ない世間話から、時には、常連の利用者が乗ってこないことに心配して連絡をしたりと、利用者同士での見守りのような役割も果たしています。また、それまで地域活動とは縁遠かった人が、運転することで地域貢献ができるなら、と運転手 hands を挙げた例もあったそうです。

安全安心の運行のために



住民を乗せて御笠地域を走る御笠自治会バス

御笠自治会バスの運行を支える運転手は現在28人。シフト制で運転を担当しています。運行開始前には、バス停の位置や危険箇所の確認のために自家用車で練習をしたそうです。それでも「初日は本当に緊張して、乗降のあいさつだけで精一杯でした」と苦笑します。

第1便の運転手の集合時間は朝6時。運行前の車両点検や洗車を欠かさず行い、運転手の体調も入念にチェックします。利用者に安心して乗ってもらえるよう、安全に対する誇りと責任を持って臨んでいる様子が伝わってきました。



地域のためのバスとして

カミリーヤを利用しやすくなった、買い物に行きやすくなった、など、温かい声が聞かれる御笠自治会バス。懇談の中で、出席者の皆さんからは何よりも地域の声を大事にしているという意識が強く感じられました。御笠まちづくり協議会の八尋会長は

「御笠自治会バスは御笠コミュニティのまちづくりの基本。これを継続していくことが大事だと考えています。地域の声を聞きながら、より利用しやすいバスにしていきたいです」と語りました。

参加者の感想

・協議会やバスの取り組みを聞いていただいて、とても充実した会にできたのではないかと思います。
・市長が気さくな方でしたので、緊張せずに思ったことを話せました。



藤田市長の一言

八尋会長を中心に、真剣に熱意をもって地域のまちづくりに取り組んである、皆さんの活動をしっかり聞かせてもらうことができ、素晴らしい第99回の移動市長室になりました。住民の安心安全のために、責任を持って自分の業務をしていただいてる皆さん方から、これからのまちづくりの大きな原動力を学ばせていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後とも、安全安心の地域づくりに皆さん方のお力をお貸しただいて、これを筑紫野市に広めていきたい、伝えていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

